

校長室だより

第19号

発行日 2008年2月1日

発行者 桐光学園小学校長 斎藤 滋

【講演会のご案内】

2月15日に今年度の講演会を行うことを先日ご案内させていただきました。こちらは毎年行っていることなので、今年も同じように実施しようと準備をしてきたのですが、もしかしたら保護者の皆様方の中には、講演会っていったい何なの？どういう目的でやるの？なぜ講演会があるの？・・・と思われる方もいらっしゃるかもしれません。

保護者の皆さんと一緒に学びたいということがこの講演会を行うようにしたきっかけでした。これまで、スクールカウンセラー、精神科医、警察関係者、教育センターの方などにお越しいただき、様々な事例を交えながらお話をさせていただきました。そのお話の中には、私たちがそれまでに考えたことがなかったことや、体験したことがなかったようなことがいくつもありました。今子どもたちが毎日の学校生活を楽しく送っていても、これから先に何らかのことが原因となって、予想もしていないことが起きるかもしれません。子どもたちがこれからも元気に生活していくことを祈りつつも、私たちは常に子どもたちを取り巻く環境に目を向け、関心を持っていかなければならぬと思います。

今回は、教育関係のお仕事をされている方の講演ではありませんが、逆に子どもたちの実態を客観的に分析した結果をレポートにまとめられておられることからも、これまでとは違った意味で大変勉強になるのではないかと期待しています。保護者の皆様方が積極的にこのような企画に参加してくださることを期待しております。

【総合・・・5年生研究発表】

コンピューターを利用した活動を3年生から始めていることは皆さんご存知のことと思います。「総合」という教科名を現在使っていますが、その中では、農園活動（5年生は稻作）、コンピューターを利用した学習（6年生は思い出アルバム作り）、防災についての学習（4年生）などを行っています。また、図書を使った調べ学習を補う意味でインターネットも利用しています。

コンピューターは今や学習、生活で利用する一つの道具となっており、自己表現、研究、発表の道具として使われ始めています。

そこで、今年は5年生に夏休みの自由研究をプレゼンテーションソフトとして広く使われている「パワーポイント」を使ってまとめてみるという作業に取り組んでもらいました。それぞれが研究した結果や、収集した資料をもとにまとめあげるのにかなりの時間を要しましたが、ようやく完成し先日ひかりホールで一人ひとりがその研究を発表することができました。私も今年楽しみにしていた活動の一つであったので、すべての発表を聞かせてもらいました。結果はまさに合格！私が期待していた以上の発表でした。壇上でマイクを使っての話し方、プレゼンソフトの内容のどちらも大変立派でした。そして、これまで友だちの研究内容に関心は持っていましたが、具体的にどういうものなのかを知ることができなかった子どもたちが多く情報を共有できたことは何より素晴らしいことだったと思います。子どもたちの頑張りと、そこまで根気強く子どもたちをリードしてくれた教員チームの力をうれしく思いました。発表を終えた子どもたちには今回の活動の感想を是非聞いてみたいと思っています。

【個人面談を終えて】

1～5年生は1月の第4週に個人面談を行いました。多くの保護者から「子どもが、学校が楽しいと言っています。」という話を聞くことができたという報告があり、私としてもこれ以上に嬉しいことはありません。まだ一人ひとりの詳しい報告書は手元に届いておりませんので、今回の面談結果をどのように今後の教育活動に活かせるかを考えるのはこれから作業になりますが、いくつか気になることや改めなければならないことがあります。

書写（硬筆・書き方テスト）について・・・国語で指導している文字の書き方や形と書写で指導するものが異なることがあります、子どもたちに混乱を与えていました。この件については、今後そのようなことがなくなるように早急に対応していくことにします。

授業中の子どもの発言について・・・「授業中勝手な発言をする子どもがいる」「知っていること、分かったことをルールを守らないで発言することで、他の子どもの思考を妨げることになる場合がある」というご指摘がありました。これらは、集団の学びの場である学校ではいつも教員たちが気をつけていくことなのですが、教員の声かけがこれらの子どもになかなか届かず、改善されない場合があることも確かです。しかし、私たちは決してそれを容認してはいませんし、全員がしっかり学び合うことができる環境を作りたいと思い努力しておりますのでその点はご理解いただきたいと思います。

言葉遣いについて・・・子どもたちの言葉の乱れを気にされているというご意見がありました。「省略言葉」というものがあります。「すご（すごい）」「つよ（つよい）」「でか（でかい）」「よわ（よわい）」などでしょうが、私もそういう言葉は嫌いですし、耳障りな言葉だと日々思っています。こういう言葉を遣う傾向は、子どもだけでなく大人にも見られます。皆さんには無縁の言葉であると思いますが、子どもたちには言葉の持つ意味をよく考えさせるとともに、美しい言葉を遣うことの素晴らしさを理解させたいです。